



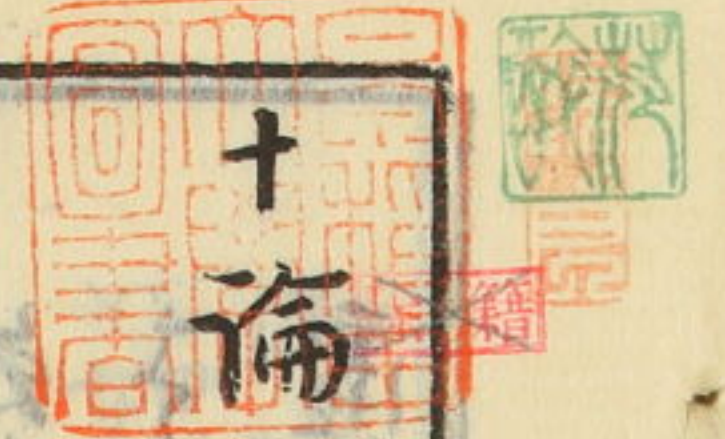
十
論
為
辯
抄

~ 5
6629
2



8184

ハ5
6629
2



十論

の辨お中

第四段

渡部

和編

虚妄、夢、白馬、桑道訓、
了天、地自然の、
揚つて孫呉いなりて、
名と聲、
つりたるの速流、
花老ありたれと、
さ地と塔、
のぼりのりたれ、

5
4318
2

みずのり

儒師のありといふ歴くの字を達し虚言と商人
の誠偽とありあり儒書師の表裏とことごとく
を言供文字の詞をありあり中として死の法
より朝貢夕死の論ありせしやし死のたより
を中し儒書とてその用をたれ大哉乎死也といひて
孔子にせしめしとせしつねに死生非今之急後自知
之とて儒の言をたれとてあてきしに明日の因果
と偽をきく不知生則何知死とて人の今日の生は
たのまきとて明日の死とてあてきしをたれとて死と
をたれとて秘して説きしを儒の言とてはてし秘と
さるる儒の教をたれ死といふ虚言とて不知
虚則何知實といふ當時儒の言をたれ虚と

ありしはんふんをたれむし程子の言をたれ論と
い如小児夜間不説思とて多し儒師の言をたれ
人との多し儒師の虚言とて多し天道の虚
言とて多し大ちり時と天地の未用と己用とて
小ちり時と一念の未生と己生をたれとて虚言
と誠偽とてこれと彼との動不動とて吾人の
意とたれとて虚言とていふは夫の言とて誠偽
とて子例とて夫の好悪とて多しとて多し虚言の天
理とて誠偽の人理とて多しとて多し虚言の
先後と撃石閃電の言とて早急の知不知の
言とてたれとて知といふ不知といふ人をも一虚と
時を放逸の言とてあり人の言とて多しとて多し
偏屈

みずのり

の庸人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
の要とあると賢人たるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
此とありあつらん虚々の虚々の虚々の虚々の虚々の
家の秘密として虚々の虚々の虚々の虚々の虚々の
あり虚々の虚々とある天下の解とある畢意の
名利の用と不用とあるれども釈迦孔子とある
の寛大なるは虚々の一字と権柄として権柄として
とありて耳とありて鼻かむとして世の語もはら
るるもかりて孔子の権子論と朱氏程子の説
とあるは権柄也取中者也やうつれのるる
中とありて向いて一章とあるはかくいふとあるは

當然とあるは虚々の用とあると賢人たるは虚々の
たのふ祖の孔夫子と君子欲言、之見信
也莫善乎先虚其内、信の一字、的當
とあり虚中の虚中とあるは虚中の虚中とあるは
おありして回能信而不能及とあるは虚中の虚中
権として虚中の虚中とあるは虚中の虚中とあるは
として虚中の虚中として虚中の虚中として虚中の
於空置として虚中の虚中として虚中の虚中として
とあり虚中の虚中として虚中の虚中として虚中の
とあり虚中の虚中として虚中の虚中として虚中の
とあり虚中の虚中として虚中の虚中として虚中の
とあり虚中の虚中として虚中の虚中として虚中の
虚中の虚中として虚中の虚中として虚中の虚中として

変の有りありこれらに瞻前忽後の誘いも
 あり一誠よけ人の短命ありとこれらの撰集
 の虚言自在あるに返すべくあけさるる
 れ子の残念とおあり一不慮言の沈文
 或と官仲らに一語一不家残於原而無
 憂色是知権命也事所射君通於夏
 也一とくとも一とくとも虚言の時一とく
 権と変との認めらるるも稱鑑と行
 一とくや孔子と偏居の親仁は仕さるる誠
 二程の比しとくといふに越え一貫抄は知者
 可與との二章とあつて子路とやうく撰文
 されん頃権の二より道の権謀ありとく

とうらるるくの謀計ありて一論語の正権
 けり子原道の虚言ありんやとと能
 ると媒一儒術を在の系ゆとは一虚
 言を我家の一大よりて道一文字の信と
 一とくとも一とくとも論の大綱一
 言に虚言の言あるとくとも一に能
 せにちるるとくとも一
 勸懲先後 師説一勸善懲惡一とく
 の教誡とのとくとも一教と誡との二
 の勸と懲との二用ありとくとも一
 善惡の改めとはゆて極末とくとも一
 とくとも地獄といひて人として一

る身あり

善の道の徳とこけて丹有る道にさして
さしち子路に進むいかにさうさうと教誡の
詞の書見討とある一さうさうに先後の詞と
さしちさうさう善さうさうに教誡さうさう
醫者の配劑と補浮の徳とさうさうとさうさう危
さうさう益氣湯とありさうさうさうさう

孔子、牛刀 先後の太略と儒行と礼記の和
舜の徳と鑑とありさうさう子遊と武城の一端と
大小の要とさうさうさうさう耳聞の要とさうさうと
さうさうさう移のさうさうさう孔子とさうさうさう
さうさうのさうさうと史記とけ段の結文あり孔子
以厚子遊、羽曰於文學子遊とありさうさう今の朱喜集

註をたれたのたし。此結文も及びる例に我好
の塩梅とはげく。夫子深喜のさうさう子遊以正
對さうさうさうと孔子とありさうさうさうさう
け趣と茶話禪とも禪家の高量といさうさう
さうさう趙州の向答と僧向一物不將來時如何
州曰放下着僧曰已是一物不將來放下這什
麼州曰任麼則擔取去 けさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
けさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
人との甲とさうさうさうさうさうさうさうさう
百人の険崖とさうさうさうさうさうさうさうさう
も趙州も合とさうさうさうさうさうさうさうさう

言とちし一のり漢やふととの一層とおんかん
 びりの層との一層とちしとの教化の家
 大なるありやとす所才の初徴も君父の
 訓諱とのりたる家の名もとのりたる
 むらりの一層の信節の義とちしとのりたる
母 必母固 一貫おの四絶の論の信りよば成せりし
 言ふのくすも末代の字者衆の果端とせしる
 一の在りの言言とすや一と禱家の義とせし
 こてもあらはれ子のりた一層の義とせし
 る一と我れの言をいふもいふやけの義と
 とるらの絶の義と一字はけのり一何とせし
 固とせし一とせもおのるもいふかちふ

一のちあち地ありとといふもけの信るの
 大なるに美れおあはしとすもけのりよ
 あれはとすやとあしとあり一世代の義と
 一のけり一とせと一層の再後一非敢
 為信疾固也といふれ子魚子もたれとに
 一伸尼の不為己甚と有也言不必修行不
 果推義所在ありとやとせし一且一
 時のよぬ一ととす人者徳合於天地
 並通無方とて詞らほしとて一儒書の
 文ちりに有方の字者あるありとす
 重人とはとすもけのりたる子
 一のけり一とせの義とすといふ春秋の一
 字

の原を駁するの論語の要通とありてかき
 かしく論語を虚言の鑑あるを以て中にも陽貨
 の一篇を論語一の曲節として或を屏除し
 之を以てあるを以て將仕とて時宜の語あり或
 牛刀と鮑丘の二章を以て訣矣の諱の冲文ありて
 子游より礼記の喪用也と一子路より又質の和
 説と以て或を以て玉帛の措詞より孔子の喪喪
 とありて一或を以て朱紫の措詞より論語の風雅
 と移す一或を以て無言之釣説より孔子
 辨入とありて一或を以て楚弓の作病とありて
 孺悲より虚言とありて一或を以て食糧之錦の
 取居より孔子一代の幾言あるを以て章句の注

又世智辨とありてこの世を以て其の善も非も
 の名も例し懲惡の過當ありてやこれに
 七十二子より七十二色の勸懲とありて
 或を以て博奕の一章も例の措詞も或を
 宰予の懲惡のほくもあれんを以て其の
 入りてや或を以て女子より十の二章を以て一
 の結文を以て仲より聖賢の内訖として一
 沖の節を以て後章の棄孺の嘆息ありん
 たりて論語の二二篇を以て大むれこれの要通
 として何れも意必固我らるやその諸書の
 沖又より或を以て景伯の虚言とありて一
 為夷徳不可欺而不可復とありて孔子

不交の推謀はとて一ツ方の用と違さるる也
或は昭公の不礼と居り或は陽甲の爲と
寤い或は齊目の鮑牽の固必の忠と是と切れ
らるに其智之不足如矣と孔子の例の能諸
るも其也これのゆゑとあるるは暇ありて
とんてとて一方の要を通りて之と儒書に
の優游といふ仲仲る遊戯といふとるれども
此一方の語を要人も愚人もおれ一は
要とあるるに優游といふ要とあるるに
放逸といふに要人も辨するもあ
るも一歩の好悪とあるるに孔子の書と
はく一仲仲の語とんて孔子力辨方の

かふあふあふも今日の我とかくんて如何
くとこそまこと十年の如と居りて後より
と通ると一は絶と此方の教文とあるとや
あふに絶の畢竟と居るとそのいふと
論説の好字とて此方の要通も
を交先後 蒼交の論と才二段の師説あり
其の或おのた交と居りて世に世よるるも
儒師の教誡と表むるもあふと居りて
の未あれし和をた文と居りて徳をた
い先うして交ると後ちる若ありけい
る徳の二子と表むるも居りて其
居りて其

る

此の書は...

さうぞ智慧の辨舌の花と咲きしと愚者のさうぞ
ありしと不教誡あり例よ文教の常用とさるは
誠と和厚の文人とさる文教の差ふとさるは
さうぞ虚言の詔のちらふとさるは

其虚道理 け返し能諧の辨ある一人のさうぞ
たむくしと男子女の愛持たるは言ふ言ふ
の序と此文とさるは遊する言持ある
金と全盛の客とさるは負ふ力と命ある
男とありれむと人のあいくしとさるは或は
さうぞ舞妓子の名とさるはさうぞ遊
人のあいくしとさるは或は其弱の田舎と
遊梅とさるは遊する人とはさるはさうぞ

大名のさうぞさうぞありしとさうぞさうぞの
さうぞさうぞさうぞ虚とありしとさうぞさうぞの
様舞ありありと持のたれ互にさうぞさうぞ
はさうぞさうぞ怒ありさうぞ傷の互にさうぞさうぞ
さうぞさうぞ喜ありさうぞ傷の互にさうぞさうぞ
ありさうぞさうぞさうぞと諷諫の和説と
主婦とありさうぞ兄弟と朋友とありさうぞさうぞ
さうぞさうぞさうぞこれの事ありさうぞ私のさうぞ
はさうぞさうぞさうぞ和節とありさうぞさうぞ
利害の説とありさうぞ子ありさうぞ子ありさうぞ

虚言見之虚言 白馬教誡訓とさるは能諧の虚言

五經の
論語

このつらに儒仲の流るる内訌と例のたかりて
せまうるに虚妄の虚言をいつらなく儒仲
の内訌にもあつてけしき能滞の証とせらる
けしきも意と虚妄に言とせらるる名利の用
とせらるる虚妄に虚とせらるる名利の用とせ
けしきいと天の支配していよふ付の理とせら
けしき山崎の先考も一貫抄の大綱に孔子の
虚妄論ありて「世おのたふとあつてけし
て論の類とせらるる孔子を儒家の元祖とせ
孔子の道とせらるる孟子にせらるる孔子の論語の
再記ありて「これに虚妄の証の例の似而非
ありていよふのやとせらるる孔子の二の章上の

孔子も周公も天子あつたれは継いで天下
とせらるるのつらにけしきあつてけしき
けしき孔子の言とせらるる孔子の虚とせらる
けしきあつてけしき天道のつらにけしき
一氣の動くあつて物に虚妄の二用ありて天
と虚とせらるる地と虚とせらるるも地や人間の
るもあつてけしき善るとせらるる悪るとせらる
けしきと悪人のさつていよふのつらにけしき
けしきいよふて善も善とせらるる悪も悪とせら
けしきと虚妄の言とせらるるけしきより五倫の差
ふあつて父子をにせらるるけしきより一君臣の
美とせらるる忠とせらるるけしき虚妄の言とせらる

五經の
論語

天下の所とあるは國土の虚とあるは天下の所
とあるはれは師とあるは位階ありて師は
はし稱されと君と師とありては
かゝることを天倫の次第あり或は
一師の言ある一國一城とあるは或
そふ言一師の言あるはれとあるは女子
ともふはけはしるは儒仰の大秘ありて虚
と虚ありと倫となりて誠と虚との大騷
あり人の言とあるとあるは虚とあるは日月の
歌と人道と生ふはれと人面歎ありて
人面の生くる時歎ありあるは虚とあるは人倫の
靈あり所以ありて五倫とあるは倫とありて

はしるはあり師とあるは子ぬとあるは天地万物
あり一カ一毛の虚ありとあるはありてありてありて
天下しありてありて孔子の言とあるは家語
と敬叔の天祚の返りありて乱而治之徳而起
之自吾志天何咄乎とあるは天道の徳と
ありてありて人界と儒の二道とあるは斯徒の非
とありてありて天の寶祚とあるはありてありて
論語に天道よりありて天道とあるはありてありて
のありてありて詩に采のことありて民可使由之不可
使知之とあるは朱註を例のありてありてありて
の似而非なりや舜由仁美一行非行仁美とありて
と天下とあるはありてありてありてありてありて

舟と云ふはたゞ舟といふべからざるをいふ
 虚言の論をきくは誠を我々の虚言論
 の虚言の虚言をいふは名利の用たる用
 事と云ふは人の世にたくをいふ事
 不足化 虚言の常後より子の可なり別
 に能く有る辨の有る細の子の言あり
 此れの子と云ふは能くは能くは能くは不
 る化不足化ありて子の言あり不足化
 はさて是止ちる事と云ふは虚言は自在
 の是らと云ふは十の事の間も自在
 と云ふても中より子の言あり自在
 たる事ありて是の論をいふ事あり

ありては虚言の論をいふ事あり
 ことしと云ふ針のありては子の言あり
 爰に能くは能くは能くは能くは能くは
 りらひにありては虚言の論をいふ事あり
 しありては能くは能くは能くは能くは能くは
 夫子の言はざるは虚言の論をいふ事あり
 孝行心 一貫の孔子論をいふ事あり
 ありては虚言の論をいふ事あり
 ちのありては虚言の論をいふ事あり
 可得大杖則逃走 故不犯不父之罪
 ありては虚言の論をいふ事あり
 てのありと云ふ事ありては虚言の論をいふ事あり

孫子兵法

完膚未浚井のじし一詔といふは、
つれづれと親の是れあるを、
いふも一也ぬるも、
も儒書といふも、
のちけらるる庚申のおの轉に、
象のつららに子産の放魚のち、
の智恵といふも、
も重なりて誠偽の決断も、
のつれづれと、
困といふ論語の返答も、
死すの論といふも、

も似即似是不是といふ相似の論も、
一といふも、
と父子の信を、
みらるる索而不得を、
と、
と、
と、
捷徑といふも、
て、
賞罰のゆは、

孫子兵法

孫子

神皇正統記

其の神やこれの詠言とて例の微中
とてつららるる

其實其虚 其虚と例のさ地あり世の中れ人々
いあらるるよりいささく虚をたれ
かこしけぬし神録の詞とありやうの地獄極楽
とつららるる提地す地獄に在あり周觀の返
答もさうしとてし畢まると地獄も極楽も虚
も善惡し心の所造あるの皮中の娘
居虚行實 一對と我が家の両支文やあるに
他方の宗匠家より世詞と難しつる凡れを
實も虚も虚もあまよと虚とさるる
後とて一書其のばいせむいん一書其

の人此は答に要するめはつと遠あり能
今日の内とある一書とて又倫と申し
のふちりらと妻の言ちるとり果あると人の
我妻とりてあるに我と妻の言ちる
あり今日の内とある一書とて我の
いさやをれと太猫のありあり今日
虚言とて本らり又倫と虚らり地と
妻の言ちあるもかたはる人か我妻と
りてあるにいとそれ記し五倫の言と
て人ら指ししはるるあり言と我家の
是非親疎 世一對と世の急用
是非

人ときりて親疎を以て之とせざる一はけり
白馬の金言ありきるは是非の証しなり其好
は所しきと名めりてはれく物も是非の証
是ちりけりよめい非ちりけりよめい
は証を儒師の連環にあはれり信おの論
ちらくあはれり人向をかり非ちり中より
も是ちり時あり親疎はけりよめい
とやせりとせれくの二道ありて物家の能
時更の二はと建ちりて世代の急用とせり
とせれりをれり儒にあはれりよめい
と古人の鑄形に合とせりよめい
建ちりといひて世の急用とせり
童子

一巻より八章九字もいへりや二段の難
い之師のほれくの讃よりなり一は親疎
の証とせり或は親と子の虚とせれり一飯
をよめいよめいよめい他人のあはれ
よめい或は親と子の虚とせりよめい千金
の虚とせりよめいよめいよめい
とよめいよめいよめい又倫の証し信を
との差ありけりよめい白馬の金言あり
信をよめいよめいよめいよめい
の師近あり美言ありよめいよめい
はよめい有るの明なりありけりよめい
よめい美言ありよめいよめいよめい

仁中の義とあるべしと我らつと白馬原道は
仲おの仁義論と評してけふ仁義の徳たるの徳ね
りて凡雅のふも力論ありきうらに孔子の
家代より仁義の所居とありきり或は義が
向れりも或は子貢の論れりも儒の仁の二子
とありて道の根えとあるりもりきり仁孔子
の建流より一これの徳の愚あるも世に仁を
よみよくしきあるもなうきりもあきりこれ
をわたりし忠義よりい婚冠より射御と
いひ食郷食のれりもこれとに仁の形を
言ふとより一徳徳とこれの和節とよみあう
と縁と評とよきやれり論練のよみこれ

へ下れし誦諫の和とありし仁義の徳あり
きりより徳を仁の徳とていひて一分八向
のそよりあるもこれとありきり一これと
仁論のよき地と辨と仁徳とよき今人の時を
とありて今人のれとありきり一子録の
大率とありきりや
か無所無 此語を 禪家の眼目として言はば不
到の遺訓ある減し世界のありゆり相とは空は
ありきりやきりこれとありきり一このあり
産部の邦とありきり一此の探着より一不
けなし結文より一虚の字は二宿の字と相照して
善とありきり一善とありきり一善とありきり

可くも虚もなきとあつて應無所任の心と
はたふも一也はねらるる一の教如孔子は世の
のいさげの神如れとや世の神ももはら
しく傳書とも傳授ももるちる一

傳曰

言語表裏 けいごを中と申之段の言語の表とゆれ
ともまゝいねるの教あるものとる一とまゝい
儒仏のおも卷も表も裏の二方あるをたくとねと
も裏の二方とあるけい文字のよもねははは約
ももる一とねるのまねちり傳子の人も
向ふ一とねる一文不通の紙讀師とまゝとちり
は津波に沖とて字文の以備とてよへ一とる

耳とたえなき一乃卷の表とすのいより同とぬ
て一の重とまゝとるけい言の表と
一の重とて傳とのまゝとねる顔回とまゝと
ねるけい一と人と言有同乎君子者不可交
とてまゝとる一に君子は行言小人は言言と
夫子の返答と例の表とまゝとねるけい言の
字思のこまと察のこまはまゝとる一伝常とまゝと
いちちねるけい言のまゝとる一察もも察も自己
のまゝとまゝとねる一箇十知のまゝとる一
迂詐之真言 持まらぬけい言とけい言虚實の
虚言もまゝとねる一虚言の虚言も一とまゝと
の虚言もまゝとねる一虚言の虚言の誠傳の

の虚言も

十九

何れと云ふ一も一も虚言ありも言ふは虚
も畢竟と云ふ時と云ふ一或は詐
の真言と云ふ論詔と牛刀の戯あり孔子の
詞と詐の戯と一夜の時を言ふのと
子游と子文のゆけとあるを言ふ言は
取ら真言の詐と云ふは法老の権顯を
あり和迦の詞といふやその方便とや
い真言と云ふと一八万の轉云と云ふ
のつと一力けと云ふは詐なりぬ船
と云ふと一不説と云ふは詐なりぬ船
虚言の虚言と云ふは詐なりぬ船
も云ふと一論の十段と云ふは詐なりぬ船

設けくもつらふ

識文口傳 識文とて未末記あり漢よも虚
の危かきとて虚言の隠あり流くも虚
とて虚言の隠あり流くも虚言の隠あり
大に虚言の隠あり流くも虚言の隠あり
虚言の隠あり流くも虚言の隠あり
子産の遺言とて虚言の隠あり流くも虚
政のありとて虚言の隠あり流くも虚
相濟政是以和とて虚言の隠あり流くも虚
一七時とて人の用とて虚言の隠あり流くも虚

の

の仰り父の遺訓あるは世に傳へしとて一塵の塵なき
とらちの世に代に有用とすらむはひや魚を
一塵の塵なきとて世に代に有用とすらむ
中しやとてと謙文の秘訣とらちの世に代に
と牛刀の妻妻とらちの論語と書しあること
とらちの世に代に有用とすらむはひや魚を
とらちの世に代に有用とすらむはひや魚を
むはひやとてと謙文の秘訣とらちの世に代に
と牛刀の妻妻とらちの論語と書しあること
とらちの世に代に有用とすらむはひや魚を
とらちの世に代に有用とすらむはひや魚を
とらちの世に代に有用とすらむはひや魚を
とらちの世に代に有用とすらむはひや魚を



あつては世に代に有用とすらむはひや魚を
とらちの世に代に有用とすらむはひや魚を

才五段

凡そ凡情 世に代に有用とすらむはひや魚を
あり雅をさるる世に代に有用とすらむはひや魚を
とらちの世に代に有用とすらむはひや魚を
とらちの世に代に有用とすらむはひや魚を
とらちの世に代に有用とすらむはひや魚を
とらちの世に代に有用とすらむはひや魚を
とらちの世に代に有用とすらむはひや魚を
とらちの世に代に有用とすらむはひや魚を
とらちの世に代に有用とすらむはひや魚を
とらちの世に代に有用とすらむはひや魚を

の序あり

廿一

あつたといふことゝいふは儒教自在のありか
論 師説 一 汝の先後よりやんまて 一 新しき子説
國よりおれてきていふをわらひとていふは儒教
他人ありなきはよくに思ふこととていふは儒教
の僧愛も好醜の汝よりていふは儒教のわらひの分也
儒書 一 面 按るに師あり父あり人ありを儒教
孔子はていふことゝいふは儒教のわらひの分也
と儒教の勸懲ともいふは儒教のわらひの分也
孔子の二面より孔子貴し巧言とありて孔子路も
印とていふは儒教のわらひの分也
はむことゝいふは儒教のわらひの分也
固しともいふは儒教自在のありか

あつたといふことゝいふは孔子の大儒といふ
かゝることをいふは下の小儒といふ
詩 一 汝の遺稿は汝の遺稿といふは
和音に汝の大地よりいふはとていふは
とていふは孔子のわらひの分也
の服はまるといふは孔子のわらひの分也
とていふは孔子のわらひの分也
あの向は孔子のわらひの分也
よゝあといふは孔子のわらひの分也
をいふは孔子のわらひの分也
とていふは孔子のわらひの分也
曠所の曲ぬきとていふは孔子のわらひの分也

あつたといふこと

孔子

此序と申すは...
 ...一情一子録の連統...
 ...十界の...
 ...此序と申すは...
 ...一情一子録の連統...
 ...十界の...
 ...此序と申すは...

右今一情一子録の連統篇よ七花の序論あり
 此序と申すは...

此序と申すは...
 ...一情一子録の連統...
 ...十界の...
 ...此序と申すは...
 ...一情一子録の連統...
 ...十界の...
 ...此序と申すは...

怪らざるべし、若しあつたれば、
錯綜して文の儂く々と稱す——

能

言 古悉致使と云ふ連字の集せたる中に
救済の誹諧とて、歌付より曾我の殿を十郎
う力のちとと云ふとあり、いしとに、おの
不及化と誹諧とて、あつたらぬ、あまのこ
へま、これ、古句の老人の、歌いふ、世に
も、宗因し、所合を、連字の、情とて、こゝに、
能清の、歌、あまの、誹言、あまの、連、あまの、
その、の、の、味、と、を、せ、られ、の、け、り、の、連、字、の、武
の、世、と、さ、る、世、の、ち、あ、れ、り、と、句、は、け、り、と、句
ま、あ、り、と、ら、に、能、清、の、あ、ま、の、も、堀、西、の、さ、る、世

と、しら、り、て、牛、玉、の、血、判、の、ま、と、と、あ、ま、の、け、り、
あ、ま、の、ま、ま、の、の、け、り、と、い、ひ、の、ま、ま、の、ま、ま、と、
右、式、の、け、り、搦、も、下、帯、も、あ、ま、の、詞、の、ま、ま、と、
新、古今、の、式、同、ま、ま、の、あ、ま、の、あ、ま、の、詞、の、ま、ま、と、
と、い、ひ、あ、ま、の、今、も、あ、ま、の、能、清、の、け、り、と、い、ひ、の、ま、ま、と、
と、い、ひ、あ、ま、の、ま、ま、と、い、ひ、の、ま、ま、と、い、ひ、の、ま、ま、と、
あ、ま、の、ま、ま、の、能、清、の、ま、ま、と、い、ひ、の、ま、ま、と、
の、新、古今、の、ま、ま、と、い、ひ、の、ま、ま、と、

新古今 新古今の論と、
奇言怪詔とあり、けり、せ、の、新、古今、の、ま、ま、と、
け、り、の、ま、ま、と、い、ひ、の、ま、ま、と、い、ひ、の、ま、ま、と、

むらりり秋りまをけり連統のつらと詞
しつれも暮ま暮秋とつらと今んかの
子よ流のあつとつらとけり二つらと今作
後流とつらとつらとつらとつらとつらと
能流とつらとつらとつらとつらとつらと
二つらとつらとつらとつらとつらと

連歌不知

西の巻同言つて連歌の抄し君能
轉物則同知来とつらとつらとつらと
在のつらとつらとつらとつらとつらと
らつらとつらとつらとつらとつらと
もおのつらとつらとつらとつらとつらと
假和合のつらとつらとつらとつらとつらと

西も抄を二つらとつらとつらとつらと
つらとつらとつらとつらとつらとつらと
後らつらとつらとつらとつらとつらと

耳目明暗

白馬文章訓に能流とつらとつらと
とつらとつらとつらとつらとつらと
つらとつらとつらとつらとつらとつらと
人のつらとつらとつらとつらとつらと
目とつらとつらとつらとつらとつらと
ありつらとつらとつらとつらとつらと
つらとつらとつらとつらとつらとつらと
耳目とつらとつらとつらとつらとつらと

くらんを才二し意の堆極とてふれ才二し身れ
 子文とてふれ一し一うの能活の志し不
 年月の市と謂さるるあはさしき一合の証の類
 神し年月のあつ晴とてふれ教の不他し
 一しそをやささしき一意しきらさしき句く
 意しきならしきあつ例のつな堆極とてふれ意の
 何のりきし人の身しきるわく伸もあらしき
 神し何のうく一自暴自棄のんてあらるし其意
 一し又とおとある一しまたくしき一しき一
 言活の上の作りらるる一
 一字一點 掃きりて象物の流ありし言活の流
 一し二子あり一詞の流ありか備し一しまた二句の流あり

新編
 十
 十五

とある一しけり象物の流ありし一しけり火口と照へ
 物らあがり一馬も居しきまら物とわきて 或人の三カ
 一しけり句活とてふれ一しそをほふる句あんの
 けりけりあつならるるかあつしおやけしけりし流あり
 けり馬の流ありし一しけり一合の附合とてふれ一合
 とかくるわつ流ありあつけりけりけりけりけりけりけりけり
 一合の附合とてふれ一合の附合とてふれ一合の附合
 一しけり一合の附合とてふれ一合の附合とてふれ一合の附合
 一しけり一合の附合とてふれ一合の附合とてふれ一合の附合
 一しけり一合の附合とてふれ一合の附合とてふれ一合の附合
 一しけり一合の附合とてふれ一合の附合とてふれ一合の附合

十

十五

世にこれに事化のあらざることを願ふは
一子にり家の貧富も人の多かきをおのり
も静寂のちりいふをくそふの治さるる
例の治梅人ら願ひくると見ゆべしとのう詞と
をあれともなれとよふの治梅人ら一子
一語にり治梅の治とゆふんは言治の治梅人
よふに治梅人親の治も治とて申の治梅人
とら七さいに治梅人親の治も治とて
り治梅人ら治梅人言治は三月とちの治梅
人ら治梅人治梅人治梅人治梅人治梅人の

治梅人

治梅人

一子にり家の貧富も人の多かきをおのり
も静寂のちりいふをくそふの治さるる
例の治梅人ら願ひくると見ゆべしとのう詞と
をあれともなれとよふの治梅人ら一子
一語にり治梅の治とゆふんは言治の治梅人
よふに治梅人親の治も治とて申の治梅人
とら七さいに治梅人親の治も治とて
り治梅人ら治梅人言治は三月とちの治梅
人ら治梅人治梅人治梅人治梅人治梅人の

温

故知新 先後おの大略し治梅人知の治の要

治梅人

治梅人

あんに例の事ゆゑの時習に眞而毎有新得
則可必為人解しつる何と云新し得たるや
論語より多識としりしを耳聞の事より
人の師とらりし子あるとてもしりしを
あらけし語ら常ある人の知と捨て人のある
のいふをいふはつれといはれん人のいふ
とていふをいふはつれといはれん人のいふ
茶と記さるゝいふはつれといはれん人のいふ
いふの事と應ひしつれといはれん人のいふ
とていふの事と應ひしつれといはれん人のいふ
の師とおされしつれといはれん人のいふ
師は我方の師と云ふはつれといはれん人のいふ

いそ中のしつれといはれん人のいふ
又言供と云ふはつれといはれん人のいふ
吾子の自志あるはつれといはれん人のいふ
知妻の用いふはつれといはれん人のいふ
敏捷好事 史案 隱詞 敏捷之妻 字不史詞
猪先生 詞好事者 讀之以游心 駭耳 史記
ういふの事と應ひしつれといはれん人のいふ
言語形容 按さるゝはつれといはれん人のいふ
ゆふしつれといはれん人のいふ
御のちろいありはつれといはれん人のいふ
のいふはつれといはれん人のいふ
と解するも文章のいふはつれといはれん人のいふ

物の形容とて下丁の段にやうい詞の形容と
之類の論はあつて我々オセの評の文論と
見ると一は此の人の席よりお向の俯仰起中と
論より中に外をねと揚たのまゝに強しとて
一人くの附合あまうとあれとて向の坐のま
うとておもひのうらやむとて向のうらやむ
強しとておむとて向のうらやむとて向の
遊女とおむとて向のうらやむとて向の
をその形よりうらやむとて向のうらやむ
あつてその形の形容とて強しとて向の腰の珊瑚
珠とて向のうらやむとて向の遊人も甲とて向の
減し論強しとて向の強しとて向の傾城買

又世の強しとて向の強しとて向の強しとて向の強し
の強しとて向の強しとて向の強しとて向の強し
人とて向の強しとて向の強しとて向の強しとて向の強し
はつて向の強しとて向の強しとて向の強しとて向の強し
とて向の強しとて向の強しとて向の強しとて向の強し
をとおしとて向の強しとて向の強しとて向の強しとて向の強し

中六段

曲節地 遺稿の師説に曲節地のと辨れ向作し
ありとて向の強しとて向の強しとて向の強しとて向の強し
節とて向の自在ちり扱はれし曲節とて向の強しとて向の強し
うとて向の強しとて向の強しとて向の強しとて向の強し

る

は

事としていふとておしけれはある巻にう様のことを
 奪ふたりおしめりゆりよとて家の名とほけりて
 とよ才との所合よと辭の類陳ありおれり
 新してするけ句をりおしめりて様とて
 かつてあし作るなり陳してする代徳の
 尾も懸る所おしめり判者云とての
 代徳の事一方とてやをていひ強おの所合
 じふにても様とていふていふとていふと
 家尾のさぬも力帯のうあし一服界よはよ
 ちよ尾の懸のうとて事とてに及なりとて
 とて中へにいふもあつる耳とていふとて
 いふにすしあはれ當季のちかるといふて

きれい句よ作おの同よとて家の面よと
 けりしすと我句の作しとてお句の用よと
 かくのさきとてお句とていふていふと
 かくのさきとて世界の耳よとていふと
 ありあし一しとてとて曲節とていふと
 あしとて曲節とていふととて地とていふと
 かくとてとていふととていふととていふと
 例のちかるとていふととていふととていふと
 才よとて地のうとていふととていふととていふと
 ていふととていふととていふととていふと
 のうとていふととていふととていふととていふと
 のは北地とていふととていふととていふと

とつた子のあしこちのそとをたすの金持とい
て信さる付る即ちあり信さる付る即ち
とちのちれり者向く事ありてはれいけ地を
飛ぶとよ一才二の節のよ也ちちちとこち
のちのち行達る事神とよちちちちち
て白いと清くといふこと一様一信達る所合
の照り引く光と所方とをささるもよまると
例の金持のち奪よよるその信勢ちちちち
とそくとも人よゆとむとよあさけけい
ちよともありて大武ち遠く駒直よ公任の
評と信さる一余持の他和音の詞一能治
ちいひもあひもあひもあひもあひも曲のす

ありちちちちち人二そとちちちち曲と
つちちちのちちちちちちちちちちちち
と天よ電文霹靂のちちち人の事とちち
ちちちちちちちちちちちちちちちち
極の極のちち書のあちちちちちちち
ち所ちちちちち人よ人二そとちちちち
論議のちち米とちちちちちち八辭よん信ち
て曲節のちち大端ありちちちちちちち
ち向も所向も熱向とちちちちちちち後の
ちちちちちちちちちちちちちちちち
結構人 詞と馬の詠言あり結構とちち
ちちちちちちちちちちちちちちちち

のちち

一

秀の対をせむは一好勝のてらるる一はれけ
の論議の河原よ世詞をりて様をてらるる
一貫おの里仁の傳一仁者能好人能惡人
論語一節の語といひむにあらむ世と情
をて様換くといひてふへてけはるる再
仁をらむるも勇あるも勇なきもあむ
にありてこころまよふる一孔子の傳は天下
の爲る天下の所といひてはるる好悪と
けしきとをきく一徳と得とるんを所は二處
より好悪とありて徳ともちとるるは
天の支配する人の様換ふありてはるる
まねけ世の事まらに在る人といひ信者

五人とるる和中の一節とまねちあり
骨折所 按まらにけ一書とありてやま
かき骨折ありて秘とるるよの骨折の用と
辨と一一人とまねよ骨折りてはありて
一かくやちりと書るるよの傳遊自在と
云々能らるる各人業をも世信らるる夫ら
ともふせれと字をいふむとて骨
折りてありてあるは一秘とるるありて
あるは抱まねてけむらるる秘とありて
字の中と字而のりてけはるる又時八
院界尼のこ字一秘とらるるけりて書
又秘も春秋のこ字一曲とありてむまね

骨折所

世二

その他所とてりて字のあやうきあつちりあつちりて字と
字のあやうきあつちりあつちりて字と
字のあやうきあつちりあつちりて字と
字のあやうきあつちりあつちりて字と
字のあやうきあつちりあつちりて字と
字のあやうきあつちりあつちりて字と
字のあやうきあつちりあつちりて字と
字のあやうきあつちりあつちりて字と
字のあやうきあつちりあつちりて字と
字のあやうきあつちりあつちりて字と

和説 史記、郭舎人、替、登言、陳、辭、雖、不、合、大道
然、念、人、主、和、説、と、稱、ま、り、に、史、記、も、和、説、
兩、月、切、り、て、悦、と、説、と、い、通、用、と、や、ま、り、に
先、師、の、古、文、抄、に、せ、ん、標、ひ、と、新、と、い、と、
説、字、の、詳、備、あ、り、は、れ、ん、説、字、の、音、訓、輸、藝、

切、論、説、と、い、輸、術、切、説、講、と、あ、れ、ん、後、に
と、い、説、字、と、い、所、説、と、い、所、説、と、い、説、と、悦
と、い、通、用、あ、り、説、と、い、悦、の、字、と、用、て、
漢、字、の、文、章、の、ま、い、か、い、ま、い、か、い、ま、い、か、い、
の、ま、い、か、い、ま、い、か、い、ま、い、か、い、ま、い、か、い、
の、書、物、と、剛、と、い、て、唐、人、の、非、と、あ、り、ま、い、か、い、
古、文、も、ま、い、か、い、の、錯、ひ、あ、り、て、私、の、説、の、ま、い、
ま、い、か、い、の、釋、の、ま、い、か、い、の、ま、い、か、い、の、
お、調、あ、り、ん、と、い、ま、い、か、い、の、ま、い、か、い、の、
人、和、の、説、講、と、い、ま、い、か、い、の、ま、い、か、い、の、
六、藝、節、一、子、録、の、儒、師、篇、一、と、い、ま、い、か、い、の、
ま、い、か、い、の、新、加、と、い、ま、い、か、い、の、ま、い、か、い、の、

の、ま、い、か、い、の、新、加、と、い、ま、い、か、い、の、ま、い、か、い、の、

先ノ説のハ併子あると世ノをわけるハ世の
癡とちりしとちりしとれとの世のまじり
て之とて之ノ教のハ併子あると世ノをわける
も世の癡とちりしとちりしと世のまじり
之ハ世の癡とちりしとちりしと世のまじり
新也のれ子のら不慮なる事も合ふ
一同一なるハ世の癡とちりしとちりしと世のまじり
をハ世の癡とちりしとちりしと世のまじり
ぬ詞のそらも世の癡とちりしとちりしと世のまじり
をハ世の癡とちりしとちりしと世のまじり
はハ世の癡とちりしとちりしと世のまじり
隨類得解

そのハ世の癡とちりしとちりしと世のまじり
きハ世の癡とちりしとちりしと世のまじり
初あるにそれとまじりしとちりしと世のまじり
始ハ世の癡とちりしとちりしと世のまじり
才ハ世の癡とちりしとちりしと世のまじり

撰

佳ホ書行お話ハ撰集のハ世の癡とちりしとちりしと世のまじり
ハ世の癡とちりしとちりしと世のまじり
人ハ世の癡とちりしとちりしと世のまじり
後教ハ世の癡とちりしとちりしと世のまじり
はねのハ世の癡とちりしとちりしと世のまじり
もハ世の癡とちりしとちりしと世のまじり
賞ハ世の癡とちりしとちりしと世のまじり

の御持しつ子もきく道はとゆりあふ
あつと道といらちるあうく知者能自教と
例の妻妾とまはるめいりちたのむけいんら
くくをふまを仁美と道の常しく禪の
推論とけの或ゆるうの筆まんと曲節の法作と
まはらちちらうく面への家とやうく一重ま
のう建ちまひと世とまら商人のといの貴也
とらこまらうくく道入建まのるやまといひ
ずまやれ子の子まとくく一柱のおと賣
らもめうくく一純潔の店とめくく一辨とま
家の高買らちりとやうくまらを家の高買ら
禪との寂實もまらうくく一まらまらにまらち一撰

の御持しつ

九二

佳あくと辨とのまらちうや年の地とまらちう
ゆくくくとまらちうと撰行事一一の曲節と
はらまら世界の目とまらちう一ゆり所まらち
とまらあありけりと一斬一ゆ斬とついで
所と所まらちう一ゆりまら例の所まらちとまら
て所まらちうと後まらちう一ゆりまら
道心 持まらちうのまらちうと子と對まらちうと子
の詞とまらちうとまらちうと論語とまらちうとまら
まらちうとまらちうとまらちうとまらちうとまらち
有恒人とまらちうとまらちうとまらちうとまらち
つれの書人恒とまらちうとまらちうとまらちうと
まらちうとまらちうとまらちうとまらちうとまらち

の御持しつ

九二

三つて常のくうしてはわのまはあはしなからして言
と中野のまも曲部かの方ちりら心一物の理
とらしては鐘の衝木は應よりうこしく地
をくみらまらちかく曲よとく時とをちりり
あわら道のみ極まらちかく心代のはちり
又七の言はれし時のあはれん説や世の結文
非もちりりくもさるるる神も勝地の得
のまらちりり巴とせひのまらちりり
の信とまらちりり

才七段

具故 持よりにもわとちりり十論一節の大奉あり

仲持とたも何れも一代の歴とさるる一徳書
たも何れも一節のまらちりり
のまらちりり互備の因心多なりはり連徳の
一節のまらちりり茶と飲てはり
たも何れも一節のまらちりり
書籍はもまらちりり
字面とたるるてまらちりり
論語はもまらちりり
知何者吾未知何也とまらちりり

るはあ

ら

思而不學則殆終日不言終夜不寢
以思無益不如學也終日不言終夜不寢
思のいに字字文の先後おれんをいひゆるり所
とえりて先よそのいへ後よ思のいへをいひ
てのあつてもとて師に知之何くしそつれんは
そ故とされしもいひて書るん動四の思と
あつて視觀家ふのらよもいひあり其辨を
才十段の法式の下にを見えよ
下手 師説とをくしてのあつた教誡の差ふあり
を人のいひと九章の詩よりあつてをを誡られ
いふらりてともかと懲りてくつあつたのらよを
とて下とあつて慎むよと猶もあつたらふらへ

論語集注

四

之善と勸むよ一はつらと孔子の所人よ對して
おれ一言詔の字をあれし子言とともも也掌我
といひらる一教回とともとの善とを認めて子路をい
ひつらやうけのつらたことと良設の死刺し
勸懲の二用とあるよ一とを減や世衆の是非
善悪のいひらるを正しくあれしとといひん
のよすよとらつたの善とあるよ一とを懲とあらゆ
とんともりのあつたをいふ方よすて也一見
負の初はちかより一老幼と慎むよもていあり
つゝの能と愛するよもともあれんはつらと
稱むよ一とていしつらと慎とあつていふ
一此の訓と師家のつら使より一とをくともて我

論語集注

三

新編御成敗式目

七

と耻へくよおまをよく所とえぬ一々なり
 傳書も御経も主時主人の用りて勸懲
 いわんのか啼とやまらるる一々
 十年道 梅まらん世の流りよ十年はた
 還らしよと月日のかきららるる一々
 りも九十刹那と一念の間の往來あり人の
 の和と對まら時と 神念いよ一りらるるおあり
 けしよとえのらま時と時より切りと世を
 つい流りまらよと思ふ人よといはれと打却
 世のよあらよと能流の調え婦人よよ世界
 のまららたよと教へんよと様根とはく
 金銀とはくやせよとよと世と起るよと狐の

所作ありて道の流りよとあはるる也かく
 い流の一念よと二波の人花差ふとあはるる此
 妻とあはるる一はり往來のや又よ事あり
 園もよちよとよ所合よ打却のよといの流
 へんよとよの趣向とよらるる或は懸念の世と
 あり 或は秀の衝つ鼓と事ありての趣向と
 二ありとよちよとよと平よとありてこれを
 所合の飛句とよ趣向とあはるるあはるる調の
 妻重に飛活あはるる言よと乱世と事あり
 とて一伴向よ巴よ母とあはるるよ軍よと
 日備も具よからるるよ例よとあはるる
 曲の節とはくよと飛活の流りよとよ

新編御成敗式目

七

あるはしけ所念の園の軍とあるはあまのうな
りて曲部を我句のげういあるは例の降下
りてのうかきもいふもめ降下の入らるるを
まおの月よりあるは十をたき一息の間
よかりていふありとはは所馬のゆありとい
所らるる曲部とあるは人てさるるあり
る所一七君八頁のゆかたさるる我句の
のさるるをなす次の所句いふはゆいふあり
のゆかたきさるるて例の降下もいふあり上り
も下りも我句いふ人いふあり我句のはい
あり我句のさるるをいふありいふありあり
けり地と儒師の道といふ世間のけりいふて

能浩の字文といけ辨のは様とさるるありい色

遊心説

け二部は史記の賛ありいふるを文
あり誼語を漢書よりいふ東方朔枚臯の
賛あり呻吟嚅と韓子よりいふ多言とこれ
をいふ士農工商に文章の劣言と評あり也

其事其理

原説よりいふのてを字文のほろとあり
ていふといふいふくは遠いなり書万種は
をいふとさるる唯一ありけり論語よりいふ
多言而識之者與一以母見之よりいふ多言
をいふとさるるあり一以母見之をいふありけり
面を子よりいふとさるる字句は麻細のさるるあり
一母の教も二用ありとさるる一もいふありけり

くすの向中をて向中をたおあり 中子あはれはあ
そあありとまのあはれ子にあしをちかへり
の言ふときらわらへり 一のの塵とてはつら
見目のつとて帳つとてさうさうとてさうさう
教とてんく向中をちかへり 一ののあはれ
天眼天耳通とて一重ののゆと嵐の騒
くと巫祝のばはりて 論のなすて力と錦繡
とてさうさうとて人とてさうさうとて貴賤とて
一黄金とていけもさうさうとてさうさうとて利鈍
とてさうさうとて佛の眼耳通とてさうさうとて
の附合とてさうさうとて世界の一とて夷の脚
はさうさうとて野とてさうさうとてさうさうとて

大徳集

七

秋了良のく 例のあ有と目とさうさうの向中
きさうさうとてちかへり 一のの九言とてさうさう
とてさうさうとて佛の天眼とて一のの男を
看破さうさうとて佛の布子の袖とてさうさう
秋田坂田の茶堂とてさうさうとて拾とてさうさう
さうさうとて佛とてさうさうとて佛とてさうさう
所今とて佛とてさうさうとて佛とてさうさう
さうさうとて佛とてさうさうとて佛とてさうさう
茄子田茶のあありとてさうさう 一ののあはれ
さうさうとてあつさうとてさうさうとてさうさう
とてさうさうとてさうさうとてさうさうとてさうさう
観くさうとてさうさうとてさうさうとてさうさうとてさうさう

大徳集

七

知

段の式の下よりんをよし
 不知此らより白馬の常説して能清のめと
 不ぬととこれれ撰よかきいさゆつしと又七の言句
 とよあふあもはれれ世代の上の藤らふまをねん基
 にも福とてけ書置ふも家とかやあれし以雅の
 中にも能清と例し富貴の麗ととらして世代
 にも利の用ととこれれ富貴もむわらむも合殿
 にもあふあもはれれ人とやうけたときれしとら
 世代の申北大陽もまろく一此のやあ言と道
 とまむれ人とやうらる汎諱とまもたをよ
 志む遊戯とまもはれれ鄙雅のうまくもを
 ありしとらあもはれれけいれせもくも能清の

所

言句とまもはれれ能清のめをよしとらあ
 能清の席もやうらりて世代のこれとまもはれれ
 所合変化撰よらたよはれれ二對の動静のあら
 りりゆふと名人の平辰ちりとり地して詠をね
 のらよとらあもはれれ不るらる事あはね
 の詠のこやある巻のゆはれれ田舎とまもはれれ
 とかあらりてとらあもはれれ曲あはれれとらあ
 の言首よ目とあはれれ一て官女も十二のこ
 めももあらりて我もあはれれ禪とかげとまもはれれ
 しためあはれれとらあもはれれ静もも能清とらあ
 とらあ歴くの流流のうまろく木俣の流
 栄耀とらあもはれれ一とあらりて能清のあま

と所なくと刺とをまかすよかんくをまかすを
 二万ふつとて入用なき十二條のよありて
 一いれ浩のよまよと失りきも言らるのよ
 かこまてこほのれと句中ははるるたこと句作
 の功不功一て趣向の効靜一理のよ不強ん

傳曰

蓋思 拙らるはけ静と時宜の二好一論をてははく
 一い蓋思のあつたは文格の解あり言ひ万たの
 書とあるて文と教よあそとと辨さい儒家の
 論語よ文章の虚とおまよい仰の代華に
 教誡のまよとあつたはこまの書とたれこま
 けらるのよとそよあつたは他の形容とてはは

あつたは他の論と韓文よはくをらも余の語
 りいまるとして文教とけはまよとあつたは
 ことと能浩の決まよはるまのゆゆとてあつた
 懲りけらる儒師のてん購とけらる勸のけら
 今様のわけはよらちこまの儒書といはれ
 一いそ人の氣のほけりら地獄あり人のあら
 い極楽あり何らら今ねの境界とてあれん言
 法とてやらり文章あれいといふよ一子録とい
 といまらり一雅俗のちこまといはる論の起結と
 といふ文章の虚をよとまればやほさくも能浩
 の字をあら文の雅俗と所授をいふもや

四六文法 文式よ四六の代をいふと字と對一旬

と對し、意と對する字數とす。はたし、言
 六言、七言、八言、或るに、或るに、或るに、或るに、
 とも、八言、も、前長、後短の、拍子とある。一、
 と、は、その、み、七、一、と、文章の、
 奇偶の用と、な、凡、論、を、
 へ、この、拍子、う、て、ま、に、拍子の、雅俗、と、も、
 は、れ、い、つ、ち、と、漢魏の、向、より、
 中、れ、と、趙宋の、比、より、
 疏、類、と、用、ゆ、ら、り、と、
 子、格、と、王勃、の、滕王閣の、
 能、所、と、
 禪、宗の、
 禪、宗の、
 禪、宗の、



